



## 全農長野県本部情報／グリーン レーダー Vol.475

### Contents

#### A-Policy 重点事業方針

- ・平成30年度 JA長野県営農センターの事業進捗状況報告
- ・平成30年度 野菜・花きの中期事業計画の進捗

#### A-Reports／

|                                                                 |   |                               |    |
|-----------------------------------------------------------------|---|-------------------------------|----|
| ・全国生産者1万人の声を反映した共同購入トラクタ (YT357J・Z) の納品が平成30年10月よりスタートしました…………… | 5 | ・五感を使って5味を味わう「味覚の授業」小学校で開催 …… | 9  |
| ・第71回長野県畜産共進会 (肉豚の部) ……………                                      | 6 | ・松本山雅FC J1へ ……………             | 9  |
| ・大学生協食堂の食育ランチに協力 ……………                                          | 6 | ・JA全農 全国野球大会で4位 ……………         | 10 |
| ・「第43回長野県JA-SS ドライブウェイサービスコンテスト」開催……………                         | 7 | ・JA全農長野の事業現況 ……………            | 10 |
| ・十文字学園女子大学で「きのこの授業」……………                                        | 8 | ・12月の動き……………                  | 10 |
| ・農林水産祭「実りのフェスティバル」に出席……………                                      | 8 | ・12月のラジオ番組表……………              | 10 |
|                                                                 |   | ・編集後記……………                    | 10 |



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

JA長野県  
営農センター

# 平成30年度 JA長野県営農センターの事業進捗状況報告

当営農センターは、発足から本年度で12年目となりました。本年度は平成28年～30年の中期3カ年計画の最終年度にあたり、その進捗状況について報告させていただきます。

本中期3カ年計画では、実行具体策として以下の4本を柱に事業に取組んでいます。

## 1 中心的担い手等の育成・支援を進めます

JAと県域の出向く体制整備、労働力確保情報交換会等の開催

## 2 営農指導体制を強化します。

担い手アンケートにもとづく指導体制強化、品目別ボトムアップ研修会開催、指導者会議ブロック別検討会の開催

## 3 栽培技術等によるコスト削減推進の展開を進めます。

リンゴM9台木の取木繁殖技術定着推進とウィルスフリー苗代生産、業務用多収穫省力技術研究会の開

催、業務用野菜栽培多収穫省力化技術研修会開催

## 4 安心・安全な信州農畜産物の生産・供給体制を強化します。

残留農薬自主検査、GAP・トレーサ産地条件等の研修会

………

1 中心的担い手等の育成・支援に向け、訪問先の情報共有や連携についてJA別に検討を進め取り組んでいます。

労働力確保の件では、地域農業振興や生産基盤の維持のため、農業労働力の確保が喫緊の課題となっています。長野県とともに外国人技能実習制度の規制緩和と国家戦略特区（農業分野での外国人就労の解禁）の提案を行ってきましたが、新たな在留資格の創設が進められていることから国からの追加採択は見送られることになりました。今後、県など

関係機関と連携し、JAと県域が一体となった農業労働力の確保に向けた総合的な支援を実施するため、「JA長野県農業労働力支援センター（仮称）」の設置に向けた検討を進めています。

2 指導体制強化では、JA自己改革に向けて担い手のニーズを的確に反映した営農指導等事業の実現を図るとともに、PDCAサイクルを構築するために取り組んでいます。本年はJA自己改革の評価等を確認するための組合員アンケートを実施しました。

ボトムアップ研修会については、平成27年に新設した営農技術員サポートセンターで、営農技術員の栽培指導レベルのアップを目指して、毎年品目を絞ってボトムアップ研修を開催してきました。本年度は、品目ではなく「農業経営管理」の視点から組合員の農業経営の改善と所得

の向上を指導出来る人材育成を図るため、「農業経営管理ボトムアップ研修」を計画しています。

指導者会議では、営農技術員の相互交流と研鑽を図ることを目的に、専門部別・地域別に年間約70回近い研修会や会議を開催しています。本年度も9月末時点で37回開催しており、JA間による営農技術員の情報や技術交流を今後も行っていきます。

3 農業所得の増大を図るには、規模拡大と反収アップ・労働生産性の向上が必要であり、その一つとして、「リンゴ高密度植わい化栽培」や「業務用キャベツ・加工トマト機械化一貫体系」などの栽培方法の取り組みを進めると共に、機械収穫機の導入及び圃場環境整備・改善への取り組みを進めています。

リンゴの高密度植には、苗木の供給体制による苗生産の支援も行い高密度植わい化栽培の圃地面積拡大を進め



収穫期を迎えたリンゴ高密度植わい化栽培の圃地



カットドレン検討会風景



圃場でのカットドレン実演



スイートコーン収穫機検討会風景

ています。また、県内のJA技術員とともに「高密度植わい化研究会」を立ち上げて、県内圃地の視察などを行いながら知見の共有化や意見交換を行い、より生産性の高い栽培方法についての研究も進めています。

水田転換や湿害が見られる圃場の環境整備・改善策として、カットドレンの実演・導入を行い排水対策にも取り組んでいます。

業務用野菜の栽培推進には、県外の先進地優良事例を参考にしながら

収穫機による収穫検討会など実践を通じて、本県生産者に適した機械の調整や開発にも取り組んでいます。また、機械の導入には、生産規模や地域性も考慮した運用が必要であり、JAと共に検討を進めています。

4 安心安全への取組みをJAと共に進めており、国の定めるガイドラインの準拠に向けて、昨年度に長野県版GAPの改訂を行いました。本年はその取組みを進めております。

また、残留農薬自主検査なども行いながら、安心安全な信州農産物の生産・供給体制をJAと共に取り組んでいます。

これからも、当センターは中期3カ年計画にもとづく行動計画に沿って、地域農業の将来像を描き、営農指導員の育成を進めながら、農業所得増大につながる実践事例を積み上げて、長野県農業の生産基盤づくりを進めていきます。

## 野菜花き課

# 平成30年度 野菜・花きの中期事業計画の進捗

平成30年度の事業計画は、野菜事業580億55百万円、花き事業68億36百万円、購買種苗事業8億26百万円であり、合計657億18百万円の事業計画の達成に向けて事業を推進してきました。

## 1. 野菜事業の進捗状況について

### 【生産販売状況】

春先から天候に恵まれ5月まで大きく前進し、気象の変化や品種の端境などによる増減はありませんでしたが、総じて豊作基調の出だしとなりました。昨年秋季・高騰の影響で動きが鈍く、価格誘導が難しいなか、売込み、販促企画等を積極的に行い価格確保に努めました。

7月当初まで安定した出荷が続ぎ、西日本集中豪雨の影響が追い打ちをかけ相場が急落し、調整廃棄事業の発動を余儀なくされました。

その後まとまった雨や猛暑・干ばつにより作柄は一変し、定植作業等にも遅れが見られました。また9月からは日照不足、台風等も加わり、病害、生理障害の発生、品質低下が見られるなど、後半は総じて少なめの出荷となりました。販売においては極端な気象変化により作柄、出荷の見通しが難しく対策に苦慮したものの、全国各地で作柄遅延などの影響があり比較的堅調な価格が維持されました。

このような経過により10月末現在での実績は569億15百万円（前年対比114%）となっており、3月末見通しは590億円と計画対比101.6%を見込んでいます。

### 【野菜の重点推進事項について】

(1)夏ハクサイは時期別適正生産にむけた計画生産、代替品目への転換が進み、リーフ系レタスも突出した数量が続くことが少なく、価格

の確保ができました。引き続き需要に見合った計画生産への誘導を進めます。

(2)果菜類の振興については、水稻育苗施設の後利用としてミニトマトのモデル圃場を設置し支援を行ってきました。次年度は関係JAと連携し新規栽培、空き施設を利用した推進を進めていきます。また、簡易規格による業務需要向けキュウリは取組数量が拡大し、顧客も定着してきました。今後は生産維持拡大につながるよう取組みを進めていきます。

(3)加工業務用キャベツの機械収穫をはじめ省力機械、排水対策のためのカットドレーン等、長野県営農センター、農業機械課と連携して試験を行い、一部導入も進みました。

(4)ジューズ用トマトは、面積の減少に歯止めがかからず、本年はさらに作柄不良による減収となりました。

た。機械化等の省力化にむけた取り組みとともに、基本的な管理ポイントを押さえ一定収量を確実にあげていくことに取り組みます。

(5)アスパラガスの大苗定植の推進と機械選荷・機械結束の先進地視察、長野県内で実演を行い、JAへの提案、導入にむけた検討を進めていきます。

(6)販売においては、重点市場、重点実需者を主体とした契約的取引、販促企画等を更に充実させ、消費動向・顧客の仕入動向を把握し、需給調整機能の発揮に努めます。



加工業務用キャベツの機械収穫

本年度の生育は総じて前進傾向となりました。7月の酷暑は8月旧盆需要、9月秋彼岸需要へ向けた洋花の生育前進、キク類の開花遅延などの影響を与え、品質低下や出荷量の減少を招きました。

花きの相場に大きな影響力を持つ周年産地の白ギクが作付けの見直しにより夏秋の流通量が減ったこと、高温や台風による全国的な出荷量の減少と品質低下が重なり、不足感のある販売環境となりました。その結果、全般に堅調相場での販売が続ぎ、10月末時点で、出荷本数7千897万7,527本（前年比95%）、単価65円（前年比110%）、販売金額50億9,731万8千円（前年比104%）となっています。

トルコギキョウは土壌病害対策を徹底し2年連続前年出荷量を上回り、10月から本格化するアルストロメリアも豊産性品種の導入と夏場の十分な株養成により順調な生育となっています。しかし、歯止めがかからない輪ギクやカーネーションの減少を補うまでには至らず、花き事業の3月末見通しは計画対比90%、約61億円を見込んでいます。

### 【花きの重点推進事項について】

(1)本県主要品目と地域特産品目について、新規栽培の提案に加え作付けや仕立て方法など需要実態に沿った誘導を行うことで、実需者要望に応えられる商品づくりを進めています。

(2)量販需要向けに生産振興中のコギクは、依然、実需者からの期待が高く、引き続き多収穫省力型の専用栽培による生産拡大を進めています。

(3)重点実需者との安定取引を目的に、複数JAによる共同販売に取り組んでいます。アルストロメリアやカーネーションの長期予約取引や宣伝会を複数JAが合同で開催し、栽培面でもトルコギキョウを含め県域における栽培講習会や情報交換会を実施するなど他品目に先駆けた取組みが進んでいます。

(4)花き栽培に関わる技術指導や今後の生産振興と産地づくりを進めるため、現場を基本とした講習会や巡回指導会、またJA長野県営農指導者会議花き専門部の活動を通じて技術の継承と人材育成に努めています。



トルコギキョウ栽培講習会



カットドレーンによる排水対策



# 全国生産者1万人の声を反映した 共同購入トラクタ(YT357J-Z)の納品が 平成30年10月よりスタートしました

平成30年10月19日にJA大北南部工機燃料センター管内の「ヴァンペール平出様」へ、共同購入トラクタの長野県「第1号」の納品を行いました。

## ◆購入者「平出様」の感想

「60馬力クラスではエンジン排気量が大いいため、余裕を持った作業ができる」と思い選択しました。マニユ



アル仕様ですが、細かな作業速度も調整でき、違和感無く作業ができると思います。キャビンも大きく、価格の割にとてもメリットのあるトラクタだと感じました。」

## ◆推進担当 JA大北南部

工機燃料センター 丸山康光担当  
「馬力や機能面、価格等を考慮し、共同購入トラクタを提案し成約とな



共同購入の取組みにより、コストを削減して

所得の増大に貢献します

60馬力クラスの標準的なモデルと比較して、おおむね二三割の引き下げを実現しました。生産者の購入価格は、トラクタ単体で400万円(税込)を切る価格となります。

JA長野県全体で40台(11月16日現在)の受注があり、特に更新のタイミングを迎えている、あるいは経営規模の拡大を検討している方から選択いただいております。

現場の声から必要な機能を厳選

このトラクタは、生産者の声から必要とする機能を厳選して開発された為、右側の乗降用手すりやサブステップ、CDラジオなどは標準装備から外れましたが、オプションで装備できるので安心です。また、メンテナンスフリーの湿式多板クラッチを採用するなど、購入後の維持・管理にも配慮しています。全農長野県本部として実演・展示機も準備し、今後も積極的な推進活動に努めてまいります。

▼農業機械課



## 第71回長野県畜産共進会(肉豚の部)

「JAみなみ信州(農)SPF」がねや第二農場・小池雅昭さんが特別優秀賞を受賞

全農長野県本部は10月24日(水)第71回長野県畜産共進会肉豚の部を松本市の(株)長野県食肉公社で開催しました。

審査には、県内の養豚農家から生後150日以上180日未満の肉豚枝肉16組48頭(雌2頭、去勢1頭/組)が出品され、西原光男審査委員長(長野県畜産試験場長)をはじめ4名の審査員が、個体ごとの優秀性や組内の相似性などを厳正に審査しました。

今回は、3頭の枝肉重量差が審査基準の±5kg以内を超える出品もみられましたが、雌去勢とも全体的に斉一性が高く品質も優秀であり、養豚農家の飼養管理や出荷適齢期を見極める技術の高さが窺えました。

出品者やJA畜産担当者など総勢50名が集まり、現場での枝肉見学および審査講評の後、隣接する長野県農協直販(株)の会議

室で表彰式を行いました。

特別優秀賞ならびに県知事賞に選ばれた小池雅昭さん(JAみなみ信州)の枝肉は、雌去勢ともに、モモの厚み、締まりが素晴らしく、脂肪付着も均一で、3頭の体形が揃った優秀な枝肉でした。

優秀賞には、(有)岩垂原SPF農場(JA松本ハイランド)、(有)大北アグリサポート白馬アルプス農場(JA大北)、佐藤良昭さん(JAながの)の3組が入賞しました。

今年の肉豚枝肉相場は、国内生産量の回復、輸入量の増加により、昨年より低い水準で推移しており、養豚農家にとって厳しい生産状況となっています。県内でも、安全・安心・おいしい信州産農畜産物の生産基盤を維持し、農家の経営安定と、より一層の品質向上、消費拡大の取組みを実践していきます。



## 大学生協食堂の 食育ランチに協力

JA長野県農産物PR協議会は信州大学と松本大学の生協食堂で提供される「食育ランチ」に食材を提供し、長野県産青果物をPRしました。提供した食材のエリンギと白ネギは「信州豚とエリンギの旨煮丼」に、シャインマスカット、シナノスイート、シナノゴールド、南水は「フルーツ盛」に、えのきたけは「みそ汁」の計710食分に使用されました。

地産地消と旬を取り入れた栄養バランスに配慮したメニューは学生に好評で、10月16日(火)に信州大学工学部食堂で食育ランチを注文した学生からは、「普段、果物を買わないので、沢山食べられました。秋を感じた」「エリンギがおいしかった」「野菜を食べるのに気に掛けている」など様々な感想がありました。



# 「第43回長野県JA-SSドライブウェイサービスコンテスト」開催



最優秀賞を獲得した金子卓磨選手(JA上伊那 グリーンロード春富)



開会あいさつをする湯本豊大会委員長

長野県農協生活事業推進協議会燃料専門部会と全長野県本部は10月18日(木)、安曇野市堀金の全長野営農研修センターで、サービスステーション(給油所)スタッフの店頭接客サービススキルアップやカーメンテ収益の向上、士気高揚による長野県JA-SSの活性化などを目的に「第43回長野県JA-SSドライブウェイサービスコンテスト」を開催しました。

県内各地区から選ばれた11名が、迎え入れから送り出しまでの一連の流れなどを行うフルサービス給油にて、あらかじめ決められた設定条件や時間などの中で、日ごろの成果を競いました。各選手とも素晴らしい笑顔の接客サービスを披露し、レベルの高いコンテストとなりました。

コンテストを通して、更なるサービス向上をはかり、お客様の満足度を高め信頼されるSS作りに取り組んでいきます。



大会役員、出場選手全員での記念撮影

第43回ドライブウェイサービスコンテスト入賞者

| 賞    | 選手名   | 所属          |            |
|------|-------|-------------|------------|
|      |       | JA          | SS         |
| 最優秀賞 | 金子 卓磨 | 上伊那         | グリーンロード春富  |
| 優秀賞  | 百瀬 育馬 | 松本ハイランド     | やまがた       |
| 優秀賞  | 清水 香里 | 松本ハイランド     | 松本臨空セルフ    |
| 優良賞  | 武捨 航平 | ㈱ジェイエイサービス  | 本原セルフ      |
| 優良賞  | 松島 嶺  | みなみ信州       | グリーンパーク座光寺 |
| 優良賞  | 高相 優斗 | ジェイエー・アップル㈱ | 高丘         |

## きのこのおいしさを知って

## 十文字学園女子大学で「きのこの」の授業」

きのこのシーズンを迎え、全長野県本部きのこの課は10月19日(金)、県産きのこの消費拡大を目指し、埼玉県新座市の十文字学園女子大学で栄養学を学ぶ学生を対象に「きのこの授業」を行いました。学生は近い将来、栄養士や管理栄養士となり社員食堂や学校給食の現場で食材を選び、仕入れる側となる可能性が高く、学生時代に県産きのこのおいしさを知ってもらうことで利用率向上が期待できます。

この授業は、青果物健康推進協会のコーディネートで実現し、健康栄養学科1年生の80名が出席しました。

県産きのこのテーマにした講義では、産地の1分動画を上映し「生産者が手塩にかけて栽培している」と強調。冷凍保存が可能で有効なことを伝えると驚きの声が上がりました。調理実習では「きのこのハンバーグ」「手



ベジフルティーチャーによるきのこの講義

作りなめ茸」「なめ茸とツナの混ぜご飯」を作り試食しました。きのこの嫌いの学生もいましたが「きのこの匂いがしないので食べられる」と笑顔を見せました。授業後、学生にはきのこの料理のレシピ開発の宿題が出され、「優秀作品には長野県産のおいしいリンゴを進呈します」と伝えると、学生から「優秀賞を取りにくい」と声が上がりました。包まれました。

産地と連携した授業について、



調理実習の様子

同大学の木村靖子教授は「栄養学を学ぶ学生は食材の勉強をする機会が少ないので、このような機会は学生たちにとって貴重な時間」と話していました。

## 農林水産祭「実りのフェスティバル」に出展

JA長野県農産物PR協議会は、11月2日(金)と3日(土・祝)に東京池袋のサンシャインシティで開催された農林水産祭「実りのフェスティバル」に出展し、リンゴときのこのPRしました。

リンゴは「りんご三兄弟」の秋映・シナノスイート・シナノゴールド、きのこのきえのきたけ・ぶなしめじ・エリンギ・やまなめ・茶えのき茸、加工品はなめ茸を販売しました。贈答用のシナノスイートとシナノゴールドは、1段ずつ詰めてほしいというお客様が多く、りんご三兄弟も1個ずつ入った3個セットの袋詰めがよく売れ、「色々な種類を食べてみたい」「家族で好みがちがうため、みんなが満足するもの」を購入される傾向がありました。

きのこは暖かい気温のためか、鍋をイメージするきのきたけやぶなしめじよりもエリンギが先に完売しました。茶えのき茸やまなめは、味や食べ方を聞かれる方が多くいました。



りんご三兄弟セットを購入する来場者

# 五感を使って5味を味わう 「味覚の授業」小学校で開催

子どもたちに味の基本や五感を使って食べる大切さを教える「味覚の授業」が10月18日(木)、安曇野市立豊科南小学校で開催。全農長野県本部は調理実習に使用する野菜を提供しました。

県調理師会松本広域安曇野支部と県司厨士協会に所属するシェフ21人が講師として同校へ赴き、5年生3クラス計100名の児童に授業を行いました。

はじめに味の基本4要素「塩味」「酸味」「苦味」「甘み」と、第5の味といわれる「うまみ」を、塩や酢、チヨコレートを使い、味や香りを確かめました。「うまみ」を味わうために講師が昆布と鰹節でだし汁を作り、塩味を加えて飲むと「高級な味がする」と言いながら味わっていました。

調理実習では、5味の全てを味わえるラトウイユ（南仏地方の野菜煮込み料理）を班に分かれて調理しました。化学調味料が入らない野菜本来の味の深みを味わい「色々な味がする」



ラトウイユ作りに挑戦



舌のどの部分でどんな味を感じるのかな？

「野菜なのに甘い」など、様々な感想がありました。講師が「テレビを見ながら食べる」と、目から入った映像が頭の中で味覚の邪魔をしてしまいます。食事に集中して、家族と会話をしながらごはんを食べると、もっとおいしく楽しい時間を過ごすことができるはずですよ」と話すと、児童も納得したようでした。

「味覚の授業」は、「味覚の一週間」（今年10月15日から21日）の期間中にシェフがボランティアで小学校へ赴き、味覚が発達段階にある小学3年生から6年生を対象に、味についての知識や味わうことの楽しさに触れる授業を全国で行っています。

# 松本山雅FC J1へ

松本山雅FCのJ2リーグ優勝とJ1昇格が、11月17日(土)の最終戦で決まりました。全農長野県本部は2010シーズンからスポンサーを務めており、今シーズンはアウェイ戦を含め10回の農畜産物PRイベントと1回のスポンサーデーを開きました。今シーズンのイベント開催日の敗戦は1回のみと「負けないイベント」と自負しています。また、ホームゲームではMVP賞に信州プレミアム牛肉(12回・勝利試合のみ)、敢闘賞に信州ポーク(22回・毎試合)を提供しました。来シーズン、新たなステージでの活躍を期待します。



# JA全農 全国野球大会で4位

全農長野県本部の野球同好会「野球野郎会」が、10月26日(金)・27日(土)に埼玉県で開催された平成30年度JA全農野球大会で初出場4位の成績を収めました。関東甲信地区の優勝から1ヶ月間、さらに猛練習を積み、1回戦の京都に6対3で勝利。2回戦では前回優勝の鹿児島県経済連と対戦し0対4、3位決定戦は愛知県経済連に0対9で負け、全国大会の厳しさを身をもって体験する大会となりました。



# JA全農長野の事業現況▶

平成30年度10月末部門別実績表 (単位:百万円,%)

| 部門          | 区分   | 実績      | 計画比 | 前年比 |
|-------------|------|---------|-----|-----|
| 米           | 穀    | 11,474  | 103 | 106 |
| 果           | 実    | 26,258  | 106 | 109 |
| 野菜          | 花き   | 62,911  | 102 | 114 |
| 野菜種苗        | センター | 141     | 105 | 102 |
| きのこ         |      | 9,486   | 89  | 103 |
| 営業          |      | 9,769   | 93  | 107 |
| 生産販売部計      |      | 120,041 | 101 | 111 |
| 包装資材        |      | 5,304   | 94  | 94  |
| 生産資材        |      | 7,077   | 112 | 115 |
| 農業機械        |      | 4,724   | 105 | 94  |
| 施設住宅        |      | 2,212   | 124 | 81  |
| 生産購買部計      |      | 19,317  | 106 | 99  |
| 畜産          |      | 7,986   | 111 | 100 |
| 三岳牧場        |      | 168     | 99  | 92  |
| SPF繁殖センター   |      | 180     | 105 | 116 |
| 酪農          |      | 10,922  | 107 | 98  |
| 八ヶ岳牧場       |      | 145     | 71  | 77  |
| 畜産酪農部計      |      | 19,402  | 109 | 99  |
| 燃料・ホームエネルギー |      | 14,583  | 118 | 113 |
| SS協同経営      |      | 6,858   | 115 | 113 |
| 生活          |      | 6,924   | 97  | 94  |
| 生活部計        |      | 28,365  | 112 | 108 |
| 長野県本部計      |      | 187,124 | 104 | 108 |

(内部販売高含む)

# 編集後記

久米路峠を通る機会があったので紅葉を覗てきました。ちよつと見頃だったようで、犀川を挟むろうかく湖のエメラルドグリーンにあざやかな真紅が映えて、コントラストが素晴らしかったです。朝早かったのですが、カメラを持った方も来ていました。

今年はエルニーニョで気温が高く紅葉の見頃もまちまちですが、深まる秋を手軽に感じられ気分転換にもなります。皆さんもお近くで紅葉狩りなどができますか？



(K)

# 小平奈緒は、 「信州」を食べて 育ちました。

スピードスケート  
**小平奈緒** 選手  
所属:相澤病院(松本市)



光と風と水のハーモニー  
**JA全農長野**

グリーンリーダー12月号(毎月発行) 2018年11月20日発行 第475号  
発行/ JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3  
発行人/ 小林哲男 印刷/ PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3



光と風と水のハーモニー  
**JA全農長野**

JA全農長野ホームページ ..... <http://www.nn.zennoh.or.jp>  
インターネットで産地直送「JAタウン」 ..... <http://www.ja-town.com>

